

PR

100年間走り続けている加古川線は日常生活や観光・交流に不可欠であるとともに、30年前の阪神・淡路大震災直後には迂回ルートとして重要な役割を果たしました。そして今日も地域を結び、人をつなぐこの鉄路は、多くの人々に愛され続けています。

地域交流の要である 駅と路線を楽しみ尽くす

丹波市の久下地区では加古川線の魅力に注目し、地域ぐるみで利用促進に向けた多彩な活動に取り組んでいます。

令和5(2023)年8月には久下村駅で「久下村夜市」を企画し、当日は、来場者の多くが加古川線を利用しました。会場には屋台やキッチンカーが並ぶとともに、ビールや丹波の地酒もふるまわれました。交流の輪を広げたこの取り組みは大好評で、同年12月には谷川駅



会場に立ち並ぶ屋台やキッチンカー



西脇高校の生徒がデザインした播州織の中吊り広告

大切な路線をもっと元気に！ 高校生たちの熱い奮闘

兵庫県立西脇高等学校では谷川方面から加古川線を利用して通学することもでき、「電車で通えるからこそこの学校を選びました」という声もあります。部活動で遠征するとき、休日にお出かけするときなど、生徒たちにとって加古川線はなくてはならない移動手段なのです。



シリーズ②
加古川線と
人との
つながり

愛され続ける地域の鉄路 加古川線の活性化に向けて

で「谷川夜市」、翌年にも再び「久下村夜市」がおこなわれ、地元の人々が作成した加古川線のジオラマの展示やゲームなど内容もパワーアップ。西脇市で開催されたマルシェイベントとも連携し、沿線地域間の絆も

強くなったとか。

また、久下自治振興会では加古川線を利用し沿線の名所を巡るウォーキングも開催し、多くの参加があったそうです。ほかにも加古川線利用者が無料で借りることが出来るレンタサイクル事業を展開。輪行バッグの貸し出しもおこない、電車とサイクリングを組み合わせた地域の楽しみ方も提案しています。

「乗るから楽しむ」へ、発想の転換が必要です」と、会長の清水邦泰さん。路線をまちのリソースと捉えて上手に活用し、コミュニティの活性化につなげていきます。



「久下村夜市」には加古川線を利用して多くの人が訪れた

生徒たちは、加古川線の活性化に向けて自ら動き出しています。授業の一環としておこなう地域の課題を解決することを目的とした探究活動の取り組みでは、加古川線をテーマに取り上げること。ギター部員たちは「乗って守ろう、私たちのカコセン」をテーマに演奏を披露、西脇市のSNSなどでも発信されています。播州織を使った電車の中吊り広告のデザインを手がけた生徒もいます。



西脇高校生徒会の皆さん

生徒たちは、加古川線の活性化に向けて自ら動き出しています。授業の一環としておこなう地域の課題を解決することを目的とした探究活動の取り組みでは、加古川線をテーマに取り上げること。ギター部員たちは「乗って守ろう、私たちのカコセン」をテーマに演奏を披露、西脇市のSNSなどでも発信されています。播州織を使った電車の中吊り広告のデザインを手がけた生徒もいます。

生徒会のメンバーも「加古川線は私たちににとって身近な存在



加古川線100周年サイト 🔍 検索

兵庫県交通政策課 ☎078-362-4378